



様式第 2

## 受 理 書

西環第 55 - 2079 号

平成 16 年 1 月 19 日

名栗村長 様  
(産業観光課)

埼玉県西部環境管理事務所長



平成 15 年 12 月 26 日次の届出書を受理しました。

届出の根拠	大気汚染防止法第 6 条第 1 項 (第 7 条第 1 項、第 8 条第 1 項)
届出の内容	ばい煙発生施設の設置 ( <del>ばい煙発生施設の使用、</del> <del>ばい煙発生施設の構造の変更、</del> <del>ばい煙発生施設の使用の方法の変更</del> <del>ばい煙の処理の方法の変更</del> )
届出に係るばい煙発生施設の種類	ボイラー 1 基 (木質ペレット焚温水ボイラ RE-50L)

工場名称 : 名栗村体験交流センター

工場所在地 : 名栗村大字下名栗 685

様式第1号

西環第55-2079号

平成16年1月19日

名栗村長 様  
 (産業観光課)

埼玉県西部環境管理事務所長



## 実施制限期間の短縮について

平成15年12月26日付けで受理した下記の届出について審査したところ相当であったので、大気汚染防止法第10条第2項に基づき、次の通り実施制限期間を短縮します。

工事着手可能時期：平成16年1月19日

## 記

ばい煙発生施設の名称	ボイラー 1基
ばい煙発生施設の設置場所	名栗村大字下名栗685
設置・構造などの内容	1 ばい煙発生施設の設置 <del>2 ばい煙発生施設の構造の変更</del> <del>3 ばい煙発生施設の使用の方法の変更</del> <del>4 ばい煙の処理の方法の変更</del>
工事着手予定年月日	平成16年2月2日

様式第1

## ばい煙発生施設設置（使用、変更）届出書

埼玉県 西部 環境管理事務所長 殿

平成 15 年 12 月 26 日

埼玉県入間郡名栗村大字上名栗3125番地の1

届出者 氏名又は名称及び住所並びに法人にあってはその代表者の氏名 **名栗村** 印  
 入間郡名栗村長 柏木正之  
 (電話番号 0429-79-1121)



大気汚染防止法第6条第1項（第7条第1項、第8条第1項）の規定により、ばい煙発生施設について、次のとおり届け出ます。

工場又は事業場の名称	名栗村体験交流センター (さわらびの湯)	※整理番号	
工場又は事業場の所在地	名栗村大字下名栗 685	※受理年月日	平成 年 月 日
ばい煙発生施設の種類	I ボイラ	※施設番号	
ばい煙発生施設の構造	別紙1のとおり。	※審査結果	
ばい煙発生施設の使用の方法	別紙2のとおり。	※備考	
ばい煙の処理の方法	別紙3のとおり。		

## 備考

- 1 ばい煙発生施設の種類の欄には、大気汚染防止法施行令別表第1に掲げる項番号及び名称を記載すること。
- 2 ※印の欄には、記載しないこと。
- 3 変更届出の場合には、変更のある部分について、変更前及び変更後の内容を対照させること。
- 4 届出書及び別紙の用紙の大きさは、図面、表等やむを得ないものを除き、日本工業規格A4とすること。

別紙 1

## ばい煙発生施設の構造

工場又は事業場における施設番号			
名称及び型式		木質パレット乾燥機ボイラ RE-50L	
設置年月日		年 月 日	年 月 日
着手予定年月日		H16年 2月 2日	年 月 日
使用開始予定年月日		H16年 3月 27日	年 月 日
規         模	伝熱面積(m <sup>2</sup> )	38	
	燃料の燃焼能力 (重油換算ℓ/h)	68	
	原料の処理能力(t/h)		
	火格子面積又は羽口面断面積 (m <sup>2</sup> )		
	変圧器の定格容量(KVA)		
	触媒に付着する炭素の燃焼 能力 (kg/h)		
	焼却能力(kg/h)		
	乾燥施設の容量(m <sup>3</sup> )		
	電流容量(KA)		
	ポンプの動力(KW)		
合成・漂白・濃縮能力 (kg/h)			

- 備考
- 1 設置届出の場合には着手予定年月日及び使用開始予定年月日の欄に、使用届出の場合には設置年月日の欄に、変更届出の場合には設置年月日、着手予定年月日及び使用開始予定年月日の欄に、それぞれ記載すること。
  - 2 規模の欄には、大気汚染防止法施行令別表第1の中欄に掲げる施設の当該下欄に規定する項目について記載すること。
  - 3 ばい煙発生施設の構造概要図を添付すること。概要図は、主要寸法を記入し、日本工業規格A4の大きさに縮小したもの又は既存図面等を用いること。

別紙 2

## ばい煙発生施設の使用方法

工場又は事業場における施設番号					
使用状況	1日の使用時間及び月使用日数等	10時~18時 時間/回 回/日 日/月		時間/回 回/日 日/月	
	季節変動	ナシ			
原材料 (ばい煙の発生に影響のあるものに限る。)	種類				
	使用割合				
	原材料中の成分割合(%)	いおう分 カトミウム分	鉛分 非炭分	いおう分 カトミウム分	鉛分 非炭分
	1日の使用量				
燃料又は	種類	木質ペレット燃料			
	燃料中の成分割合(%)	炭分 3	いおう分 0.077	窒素分 0.3	炭分 いおう分 窒素分
	発熱量	4170 Kcal/kg			
電力	通常の使用量	112 kg/H			
	混焼割合	専焼			
排出ガス量 (Nm <sup>3</sup> /h)	湿り	最大 1021	通常 817	最大	通常
	乾き	最大 911	通常 729	最大	通常
排出ガス温度(℃)	200				
排出ガス中の酸素濃度(%)	6				
ばい煙の 濃度	ばいじん(g/Nm <sup>3</sup> )	最大 0.12	通常 0.10	最大	通常
	いおう酸化物 (容量比ppm)	最大 83.4	通常 83.4	最大	通常
	カドミウム及びその化合物 (mg/Nm <sup>3</sup> )	最大 0	通常 0	最大	通常
	塩素(mg/Nm <sup>3</sup> )	最大 0	通常 0	最大	通常
	塩化水素(mg/Nm <sup>3</sup> )	最大 0	通常 0	最大	通常
	弗素、弗化水素及び弗化珪素 (mg/Nm <sup>3</sup> )	最大 0	通常 0	最大	通常
	鉛及びその化合物 (mg/Nm <sup>3</sup> )	最大 0	通常 0	最大	通常
窒素酸化物 (容量比ppm)	最大 150	通常 130	最大	通常	
ばい煙量	いおう酸化物 (Nm <sup>3</sup> /h)	最大 0.076	通常 0.061	最大	通常
参考事項					

- 備考
- 1 原材料中の成分割合(%)の欄及び燃料中の成分割合(%)の欄の記載にあたっては、重量比%又は容量比%の別を明らかにすること。
  - 2 ばい煙の濃度は、乾きガス中の濃度とすること。
  - 3 ばい煙の濃度は、ばい煙処理施設がある場合は、処理後の濃度とすること。
  - 4 参考事項の欄には、ばい煙の排出状況に著しい変動のある施設についての一工程中の排出量の変動の状況、窒素酸化物の発生抑制のために採っている方法を記載するほか、ガスタービン、ディーゼル機関、ガス機関又はガソリン機関については、常用又は非常用(専ら非常時において用いられるものをいう。)の別を明らかにすること。

別紙 3

ばい煙の処理の方法

ばい煙処理施設の工場又は事業場における施設番号						
処理に係るばい煙発生施設の工場又は事業場における施設番号						
ばい煙処理施設の種類、名称及び型式		サイクロン集じん機・50型				
設置	年月日	年月日	年月日	年月日	年月日	
着手予定	年月日	年月日	年月日	年月日	年月日	
使用開始予定	年月日	年月日	年月日	年月日	年月日	
処理能力	排出ガス量 (Nm <sup>3</sup> /h)	最大	911 (乾き)			
		通常	729 ( )			
	排出ガス温度 (°C)	処理前	200			
		処理後	200			
	ばいじん (g/Nm <sup>3</sup> )	処理前	0.15			
		処理後	0.12			
	ばいおう酸化物 (容量比ppm)	処理前	83.4			
		処理後	83.4			
	カドミウム及びその化合物 (mg/Nm <sup>3</sup> )	処理前	0			
		処理後	0			
	塩素 (mg/Nm <sup>3</sup> )	処理前	0			
		処理後	0			
	塩化水素 (mg/Nm <sup>3</sup> )	処理前	0			
		処理後	0			
	弗素、弗化水素及び弗化珪素 (mg/Nm <sup>3</sup> )	処理前	0			
処理後		0				
鉛及びその化合物 (mg/Nm <sup>3</sup> )	処理前	0				
	処理後	0				
窒素酸化物 (容量比ppm)	処理前	150				
	処理後	150				
ばい煙量 (Nm <sup>3</sup> /h)	最大	処理前	0.076			
		処理後	0.076			
	通常	処理前	0.061			
		処理後	0.061			
捕集効率 (%)	ばいじん		20			
	ばいおう酸化物					
	カドミウム及びその化合物					
	塩素					
	塩化水素					
	弗素、弗化水素及び弗化珪素					
	鉛及びその化合物					
	窒素酸化物					
使用状況	1日の使用時間及び月使用日数等		時間/回 時~ 時 回/日 日/月	時間/回 時~ 時 回/日 日/月		
	季節変動					
排出口の突高さ H <sub>0</sub> (m) × 頂口径 (m)		5.4 × 0.25 (0.74)				
補正された排出口の高さ H <sub>e</sub> (m)		5.4				
排出速度 (m/s)		5.11				

- 備考
- 1 設置届出の場合には着手予定年月日及び使用開始予定年月日の欄に、使用届出の場合には設置年月日の欄に、変更届出の場合には設置年月日、着手予定年月日及び使用開始予定年月日の欄に、それぞれ記載すること。
  - 2 ばい煙の濃度は、乾きガス中の濃度とすること。
  - 3 補正された排出口の高さ H<sub>e</sub>は、大気汚染防止法施行規則第3条第2項の算式により算定すること。
  - 4 ばい煙処理施設の構造とその主要寸法を記入した概要図を添付すること。

様式第1

ばい煙発生施設設置（使用、~~変更~~）届出書

埼玉県 西部環境管理事務所長 殿

平成15年 1月 9日

埼玉県飯能市大字中藤中郷400番地1

届出者 協同組合 西川地域木質資源活用センター

理事長 梨木 芳太郎



(TEL 0429-70-3355)

大気汚染防止法第6条第1項（第7条第1項、第8条第1項）の規定により、ばい煙発生施設について、次のとおり届け出ます。

工場又は事業場の名称	木質ペレット製造工場	※整理番号	
工場又は事業場の所在地	埼玉県飯能市 大字中藤中郷400番地1	※受理年月日	年 月 日
ばい煙発生施設の種類	11 乾燥炉	※施設番号	
ばい煙発生施設の構造	別紙1のとおり	※審査結果	
ばい煙発生施設の使用の方法	別紙2のとおり	※備考	
ばい煙の処理の方法	別紙3のとおり		

備考

- 1 ばい煙発生施設の種類の欄には、大気汚染防止法施行令別表第1に掲げる項番号及び名称を記入すること。
- 2 ※印の欄には、記載しないこと。
- 3 変更届出の場合には、変更のある部分について、変更前及び変更後の内容を対照させること。
- 4 届出書及び別紙の用紙の大きさは、図面、表等やむを得ないものを除き、日本工業規格A4とすること。

別紙 1

## ばい煙発生施設の構造

工場又は事業場における施設番号		1	
名称及び型式		乾燥機 (3パスロータリキルン式)	
設置年月日		年月日	年月日
着手予定年月日		平成15年 2月 28日	年月日
使用開始予定年月日		平成15年 3月 15日	年月日
規模	電熱面積 (m <sup>2</sup> )	—	
	燃料の燃焼能力(重油換算 l/h)	174kg/h ( <del>771</del> <sup>401</sup> / h)	
	原料の処理能力(t/h)	1.76 t/h	
	火格子面積又は羽口面積(m <sup>2</sup> )	<del>2</del> m <sup>2</sup> (火格子面積)	
	変圧器の定格容量(kvA)	—	
	触媒に附着する炭素の燃焼能力(kg/h)	—	
	焼却能力(kg/h)	—	
	乾燥施設の容量(t)	11	
	電流容量(kA)	—	
	ポンプの動力(kw)	—	
合成・漂白・濃縮能力(kg/h)	—		

- 備考 1 設置届出の場合には着手予定年月日及び使用開始予定年月日の欄に、使用届出の場合には設置年月日の欄に、変更届出の場合には設置年月日、着手予定年月日及び使用開始予定年月日の欄に、それぞれ記載すること。
- 2 規模の欄には、大気汚染防止法施行令別表第1の中欄に掲げる施設の当該下欄に規定する項目について記載すること。
- 3 ばい煙発生施設の構造概要図を添付すること。概要図は、主要寸法を記入し、日本工業規格A4の大きさに縮小したもの又は既存図面等を用いること。



別紙2

## ばい煙発生施設の使用方法

工場又は事業場における施設番号		1				
使用状況	1日の使用時間及び月使用日数等	8時～17時 7時間/回 1回/日 25日/月			時～時 時間/回 回/日 日/月	
	季節変動	なし				
原材料(ばい煙の発生に影響のある物に限る。)	種類					
	使用割合					
	原料中の成分割合(%)	いおう分 カドミウム分	鉛分 弗素分	いおう分 カドミウム分	鉛分 弗素分	
	1日の使用量					
燃料又は電力	種類	木質ペレット				
	燃料中の成分割合(%) 重量比	灰分 1.8%	いおう分 0.004%	窒素分 0.13%	灰分	いおう分 窒素分
	発熱量	4300Kcal/kg				
	通常の使用量	174kg/h				
	混焼割合	—				
排出ガス量(N/h)	湿り	最大 5536	通常 5033	最大	通常	
	乾き	最大 4469	通常 4063	最大	通常	
排出ガス温度(℃)		120℃(最大) 80℃(通常)				
排出ガス中の酸素濃度(%)		16.2%(DB、容量比)				
ばい煙の濃度	ばいじん(mg/N)	最大 57	通常 52	最大	通常	
	いおう酸化物(容量比 ppm)	最大 0.242	通常 0.22	最大	通常	
	カドミウム及びその化合物(mg/N)	最大	通常	最大	通常	
	塩素(mg/N)	最大	通常	最大	通常	
	塩化水素(mg/N)	最大	通常	最大	通常	
	弗素、弗化水素、弗化珪素(mg/N)	最大	通常	最大	通常	
	鉛及びその化合物(mg/N)	最大	通常	最大	通常	
	窒素酸化物(容量比 ppm)	最大 25.3	通常 23 (On)	最大	通常	
ばい煙量	いおう酸化物(N/h)	最大 0.0054	通常 0.0049	最大	通常	
参考事項						

備考 1 原材料中の成分割合(%)の欄及び燃料中の成分割合(%)の欄の記載にあたっては重量比%又は容量比%の別を明らかにすること。

2 ばい煙の濃度は、乾きガス中の濃度とすること。

3 ばい煙の濃度は、ばい煙処理施設がある場合は、処理後の濃度とすること。

4 参考事項の欄には、ばい煙の排出状況に著しい変動のある施設についての一工程中の排出量の変動の状況、窒素酸化物の発生抑制のために採っている方法等を記載するほか、ガスタービン、ディーゼル機関、ガス機関又はガソリン機関については、常用又は非常用(専ら非常時において用いられるものをいう。)の別を明らかにすること。

別紙3

## ばい煙の処理の方法

ばい煙処理施設の工場又は事業場における施設番号		1			
処理に係るばい煙発生施設の工場又は事業場における施設番号					
ばい煙処理施設の種類、名称及び型式		サイクロン(乾式円心力集塵2段式)			
設	置	年	月	日	
着	手	予	定	年	
使	用	開	始	予	
使	用	開	始	予	
使	用	開	始	予	
処 理 の 濃 度 能 力	排出ガス量(N/h)	最	大	4469	
		通	常	4063	
	排出ガス温度(℃)	処	理	前	80
		処	理	後	70
	ばいじん(mg/N)	処	理	前	1000
		処	理	後	52
	いおう酸化物(容量比ppm)	処	理	前	4.14
		処	理	後	4.14
	カドミウム及びその化合物(mg/N)	処	理	前	
		処	理	後	
	塩素(mg/N)	処	理	前	
		処	理	後	
	化塩水素(mg/N)	処	理	前	
		処	理	後	
	弗素、弗化水素、弗化珪素(mg/N)	処	理	前	
		処	理	後	
	鉛及びその化合物(mg/N)	処	理	前	
		処	理	後	
	窒素酸化物(容量比ppm)	処	理	前	63
		処	理	後	63
ばい煙量	いおう酸化物(N/h)	最	大	処理前	0.0054
			大	処理後	0.0054
		通	常	処理前	0.0049
			常	処理後	0.0049
補修効率(%)	ばいじん		95		
	いおう酸化物		0		
	カドミウム及びその化合物				
	塩素				
	化塩水素				
	弗素、弗化水素、弗化珪素				
	鉛及びその化合物				
	窒素酸化物		0		
使用状況	1日の使用時間及び月使用日数等		8~17時7時間/h 1回/日 25日/月	~時 時間/h 回/日 日/月	
	季節変動		無し		
排出口の実高さ H (m)		12.0 <del>0.53φ</del>			
補正された排出口の高さ He (m)		12.0 <del>0.53φ</del>			
排出速度 (m/s)		2.87			

備考 1 設置届出の場合には着手予定年月日及び使用開始予定年月日の欄に、使用届出の場合には設置年月日の欄に、

変更届出の場合には設置年月日、着手予定年月日及び使用開始予定年月日の欄に、それぞれ記載すること。

2 ばい煙の濃度は、乾きガス中の濃度とすること。

3 補正された排出口の高さ He は、大気汚染防止法施行規則第3条第2項の算式により算定すること。

4 ばい煙処理施設の構造図とその主要寸法を記入した概要図は添附すること。

## 様式第1

ばい煙発生施設設置（使用、~~変更~~）届出書

埼玉県 西部 環境管理事務所長 殿

平成15年 1 月 9 日

氏名又は名称及び住所並びに法人にあってはその代表者の氏名  
 届出者 協同組合 西川地域木質資源活用センター  
 〒357-0122 埼玉県飯能市大字中藤中郷400番地1

理事長 梨木 芳太郎  
 （電話番号） TEL 0429 - 70 - 3355



大気汚染防止法第6条第1項（第7条第1項、第8条第1項）の規定により、ばい煙発生施設について、次のとおり届け出ます。

工場又は事業場の名称	協同組合 西川地域木質資源活用センター	※整理番号	
工場又は事業場の所在地	埼玉県飯能市 大字中藤中郷400-1	※受理年月日	平成 年 月 日
ばい煙発生施設の種類	第1項 ボイラ	※施設番号	
ばい煙発生施設の構造	別紙1のとおり。	※審査結果	
ばい煙発生施設の使用の方法	別紙2のとおり。	※備考	
ばい煙の処理の方法	別紙3のとおり。		

## 備考

- 1 ばい煙発生施設の種類の欄には、大気汚染防止法施行令別表第1に掲げる項番号及び名称を記載すること。
- 2 ※印の欄には、記載しないこと。
- 3 変更届出の場合には、変更のある部分について、変更前及び変更後の内容を対照させること。
- 4 届出書及び別紙の用紙の大きさは、図面、表等やむを得ないものを除き、日本工業規格A4とすること。

別紙 1

## ばい煙発生施設の構造

工場又は事業場における施設番号			
名称及び型式		資源木屑 KT-S-50型	
設置年月日		年 月 日	年 月 日
着手予定年月日		平成15年 3月 10日	年 月 日
使用開始予定年月日		平成15年 3月 24日	年 月 日
規	伝熱面積(m <sup>2</sup> )	9.5 m <sup>2</sup>	
	燃料の燃焼能力 (重油換算ℓ/h)	木屑 10t 99kg/h (62ℓ/h)	
	原料の処理能力(t/h)		
	火格子面積又は羽口面断面積 (m <sup>2</sup> )		
	変圧器の定格容量(KVA)		
	触媒に付着する炭素の燃焼 能力(kg/h)		
	焼却能力(kg/h)		
模	乾燥施設の容量(m <sup>3</sup> )		
	電流容量(KA)		
	ポンプの動力(KW)		
	合成・漂白・濃縮能力 (kg/h)		

- 備考
- 1 設置届出の場合には着手予定年月日及び使用開始予定年月日の欄に、使用届出の場合には設置年月日の欄に、変更届出の場合には設置年月日、着手予定年月日及び使用開始予定年月日の欄に、それぞれ記載すること。
  - 2 規模の欄には、大気汚染防止法施行令別表第1の中欄に掲げる施設の当該下欄に規定する項目について記載すること。
  - 3 ばい煙発生施設の構造概要図を添付すること。概要図は、主要寸法を記入し、日本工業規格A4の大きさに縮小したもの又は既存図面等を用いること。

別紙 2

### ばい煙発生施設の使用の方法

工場又は事業場における施設番号					
使用状況	1.日の使用時間及び月使用日数等	8時~17時 8時間/回 回/日 日/月		時間/回 時~回/日 日/月	
	季節変動	なし			
原材料 (ばい煙の発生に影響のあるものに限る。)	種類				
	使用割合				
	原材料中の成分割合(%)	いおう分 カドミウム分	鉛分 砒素分	いおう分 カドミウム分	鉛分 砒素分
	1日の使用量				
燃料又は	種類	木質チップ			
	燃料中の成分割合(%)	灰分 0.3 ~1.8	いおう分 0.002 =0.004	窒素分 0.08 ~0.1	灰分 いおう分 窒素分
電力	発熱量	4,300 Kcal/kg			
	通常の使用量	6.3 kg/h (40 g/h)			
	混焼割合	専焼			
排出ガス量 (Nm <sup>3</sup> /h)	湿り	最大 1299.575	通常 650.16	最大	通常
	乾き	最大 1210.201	通常 587.475	最大	通常
排出ガス温度(℃)	250				
排出ガス中の酸素濃度(%)	10				
ばい煙の 濃度	ばいじん(g/Nm <sup>3</sup> )	最大 0.3	通常 0.24	最大	通常
	いおう酸化物 (容量比ppm)	最大 3.003	通常 3.003	最大	通常
	カドミウム及びその化合物 (mg/Nm <sup>3</sup> )	最大	通常	最大	通常
	塩素(mg/Nm <sup>3</sup> )	最大	通常	最大	通常
	塩化水素(mg/Nm <sup>3</sup> )	最大	通常	最大	通常
	弗素、弗化水素及び弗化珪素(mg/Nm <sup>3</sup> )	最大	通常	最大	通常
	鉛及びその化合物 (mg/Nm <sup>3</sup> )	最大	通常	最大	通常
窒素酸化物 (容量比ppm)	最大 300	通常 200	最大	通常	
ばい煙量	いおう酸化物 (Nm <sup>3</sup> /h)	最大 0.003	通常 0.003	最大	通常
参考事項					

- 備考
- 1 原材料中の成分割合(%)の欄及び燃料中の成分割合(%)の欄の記載にあたっては、重量比%又は容量比%の別を明らかにすること。
  - 2 ばい煙の濃度は、乾きガス中の濃度とすること。
  - 3 ばい煙の濃度は、ばい煙処理施設がある場合は、処理後の濃度とすること。
  - 4 参考事項の欄には、ばい煙の排出状況に著しい変動のある施設についての一工程中の排出量の変動の状況、窒素酸化物の発生抑制のために採っている方法等を記載するほか、ガスタービン、ディーゼル機関、ガス機関又はガソリン機関については、常用又は非常用(専ら非常時において用いられるものをいう。)の別を明らかにすること。

別紙 3

ばい煙の処理の方法

ばい煙処理施設の工場又は事業場における施設番号			
処理に係るばい煙発生施設の工場又は事業場における施設番号			
ばい煙処理施設の種類、名称及び型式		単式サイロン	
設置	年月日	年月日	年月日
着手予定	年月日	年月日	年月日
使用開始予定	年月日	年月日	年月日
ばい煙の濃度	排出ガス量 (Nm <sup>3</sup> /h)	最大	湿り 1299.75 乾き 1210.201
		通常	湿り 650.16 乾き 587.475
	排出ガス温度 (°C)	処理前	250 サイロン入口
		処理後	240 サイロン出口
	ばいじん (g/Nm <sup>3</sup> )	処理前	0.7
		処理後	0.286
	ばいおう酸化物 (容量比ppm)	処理前	3.003
		処理後	3.003
	カドミウム及びその化合物 (mg/Nm <sup>3</sup> )	処理前	
		処理後	
	塩素 (mg/Nm <sup>3</sup> )	処理前	
		処理後	
	塩化水素 (mg/Nm <sup>3</sup> )	処理前	
		処理後	
	弗素、弗化水素及び弗化珪素 (mg/Nm <sup>3</sup> )	処理前	
処理後			
鉛及びその化合物 (mg/Nm <sup>3</sup> )	処理前		
	処理後		
窒素酸化物 (容量比ppm)	処理前	300 以下	
	処理後	300 以下	
ばい煙量	ばいおう酸化物 (Nm <sup>3</sup> /h)	最大	処理前 0.003 処理後 0.003
		通常	処理前 0.002 処理後 0.002
	ばいじん	捕集率	65%
		ばいおう酸化物	0
捕集効率は (%)	カドミウム及びその化合物		
	塩素		
	塩化水素		
	弗素、弗化水素及び弗化珪素		
	鉛及びその化合物		
	窒素酸化物	0	
	使用状況	I日の使用時間及び月使用日数等	8時~17時 8時間/回 回/日 20日/月
	季節変動	なし	
	排出口の奥高さ H <sub>o</sub> (m) × 頂口径 (m)	6m 0.25φ	
	補正された排出口の高さ H <sub>e</sub> (m)	6m 障壁付	
	排出速度 (m/s)	12.569	

備考 1 設置届出の場合には着手予定年月日及び使用開始予定年月日の欄に、使用届出の場合には設置年月日の欄に、変更届出の場合には設置年月日、着手予定年月日及び使用開始予定年月日の欄に、それぞれ記載すること。  
 2 ばい煙の濃度は、乾きガス中の濃度とすること。  
 3 補正された排出口の高さ H<sub>e</sub> は、大気汚染防止法施行規則第3条第2項の算式により算定すること。  
 4 ばい煙処理施設の構造とその主要部分の寸法は、大気汚染防止法施行規則第3条第2項の算式により算定すること。

様式第2

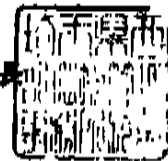
~~受 理 書~~

西環第20054-110号

平成19年 2月21日

埼玉県知事  
上田 清司 様  
(埼玉県立名栗げんきプラザ)

埼玉県西部環境管理事務所長



平成19年 2月18日次の届出書を受理しました。

届出の根拠	大気汚染防止法第6条第1項 <del>(第1条第1項、第2条第1項)</del>
届出の内容	ばい煙発生施設の設置 <del>(ばい煙発生施設の使用、 ばい煙発生施設の構造の変更、 ばい煙発生施設の使用の方法の変更、 ばい煙の処理の方法の変更)</del>
届出に係るばい煙発生施設の種別	ボイラー 2基 (無圧式沸水機 SKP-500 2基)

事業所名称：埼玉県立名栗げんきプラザ

事業所所在地：飯籠市上名栗1289-2

様式第1

ばい煙発生施設設置 (使用・変更) 届出書

平成 19 年 2 月 13 日

埼玉県西部環境管理事務所長

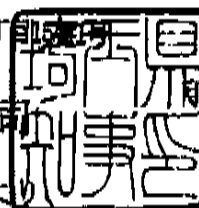
殿

届出者

さいたま市浦和区高砂3丁目

埼玉県知事


上田 清



大気汚染防止法第6条第1項 (第2条第1項、第9条第1項) の規定により

ばい煙発生施設について、次のとおり届け出ます。

工場又は事業場の名称	埼玉県立 名栗げんきプラザ	※ 整理番号	
工場又は事業場の所在地	埼玉県飯能市上名栗 1289-2	※ 受理年月日	年 月 日
ばい煙発生施設の種別	1. ボイラー	※ 施設番号	
ばい煙発生施設の構造	別紙1のとおり。	※ 審査結果	
ばい煙発生施設の使用の方法	別紙2のとおり。	※ 備 考	
ばい煙の処理の方法	別紙3のとおり。		

- 備考 1. ばい煙発生施設の種類の欄には、大気汚染防止法施行令別表第1に掲げる項番号及び名称を記載すること。
2. ※印の欄には記載しないこと。
3. 変更届出の場合には、変更のある部分について、変更前及び変更後の内容を対照させること。
4. 届出書及び別紙の用紙の大きさは、 表等やむを得ないものを除き、日本工業規格A4とすること。
5. 氏名 (法人にあってはその代表者の氏名) を記載し、押印することに代えて、本人 (法人にあってはその代表者) が署名することができる。





別紙1

ばい煙発生施設の構造

工場又は事業場における施設番号		No1	No2
名称及び型式		無圧式温水発生機 SKP-500型	無圧式温水発生機 SKP-500型
設置年月日		年 月 日	年 月 日
着手予定年月日		平成19年 4月 14日	平成19年 4月 14日
使用開始予定年月日		平成19年 4月 15日	平成19年 4月 15日
規          機	伝熱面積 (m <sup>2</sup> )	41.6	41.6
	燃料の燃焼能力 (重油換算 t/h)	98.125 (ペレット 149 kg/H)	98.125 (ペレット 149 kg/H)
	原料の処理能力 (t/h)	(落大時オリーブ-17L/R)	(落大時オリーブ-17L/R)
	火格子面積又は羽口面断面積 (m <sup>2</sup> )		
	変圧器の定格容量 (KVA)		
	触媒に付着する炭素の燃焼能力 (kg/h)		
	冷却能力 (kg/h)		
	乾燥施設の容量 (m <sup>3</sup> )		
	電流容量 (KA)		
	ポンプの動力 (KW)		
合成・漂白・濃縮能力 (kg/h)			

- 備考 1 設置届出の場合には着手予定年月日及び使用開始予定年月日の欄に、使用届出の場合には設置年月日の欄に、変更届出の場合には設置年月日、着手予定年月日及び使用開始予定年月日の欄に、それぞれ記載すること。
- 2 規模の欄には、大気汚染防止法施行令別表第1の中欄に掲げる施設の当該下欄に規定する項目について記載すること。
- 3 ばい煙発生施設の構造概要図を添付すること。概要図は、主要寸法を記入し、日本工業規格 A4の大きさに縮小したもの又は既存図面等を用いること。

2009-11-28 16:53

ナグリケンキアラサ

NO.186 P.2/2

別紙2

## ばい煙発生施設の使用の方法

工場又は事業場における施設番号		No.1		No.2	
使用状況	1日の使用時間及び 月使用日数等	18時~22時 4時間/回 25日/月	1回/日	6時~22時 16時間/回 25日/月	1回/日
	季節変動	無し		有り(当年10月から翌年5月 まで暖房用熱源として使用)	
原材料 (ばい煙の 発生に影響 のあるもの に限る。)	種類				
	使用割合				
	原材料中の成分割合(%)	いおう分 カドミ ウム分	鉛分 非鉄分	いおう分 カドミ ウム分	鉛分 非鉄分
燃料又 は電力	1日の使用量	(着火時 灯油)		(着火時 灯油)	
	種類	木質ペレット		木質ペレット	
燃料又 は電力	燃料中の成分割合(%)	炭分 3.5	いおう分 0.0027	炭分 3.5	いおう分 0.0027
	発熱量	18000KJ/Kg		18000KJ/Kg	
	通常の使用量	90Kg/日		90Kg/日	
	混焼割合	ペレット専焼		ペレット専焼	
排出ガス量(Nm <sup>3</sup> /h)	湿り	最大1285.4	通常746.22	最大1285.4	通常746.22
	乾き	最大1128.99	通常678.92	最大1128.99	通常678.92
排出ガス温度(℃)		189		189	
排出ガス中の酸素濃度(%)		14.5		14.5	
ばい煙 の濃度	ばいじん(g/Nm <sup>3</sup> )	最大0.056	通常0.056	最大0.056	通常0.056
	いおう酸化物(容量比ppm)	最大25.0	通常25.0	最大25.0	通常25.0
	カドミウム及びその化合物(mg/Nm <sup>3</sup> )	最大	通常	最大	通常
	塩素(mg/Nm <sup>3</sup> )	最大	通常	最大	通常
	塩化水素(mg/Nm <sup>3</sup> )	最大	通常	最大	通常
	弗素、弗化水素及び弗化水素 (mg/Nm <sup>3</sup> )	最大	通常	最大	通常
	鉛及びその化合物(mg/Nm <sup>3</sup> )	最大	通常	最大	通常
	窒素酸化物(容量比ppm)	最大110	通常110	最大110	通常110
ばい煙量	いおう酸化物(Nm <sup>3</sup> /h)	最大0.02816	通常0.01701	最大0.02816	通常0.01701
参考事項					

- 備考 1 原材料中の成分割合(%)の欄及び燃料中の成分割合(%)の欄の記載にあたっては、重量比%又は容量比%の別を明らかにすること。
- 2 ばい煙の濃度は、乾きガス中の濃度とすること。
- 3 ばい煙の濃度は、ばい煙処理施設がある場合は、処理後の濃度とすること。
- 4 参考事項の欄には、ばい煙の排出状況に着しい変動のある施設についての一工程中の排出量の変動の状況、窒素酸化物の発生抑制のために採っている方法等を記載するほか、ガスタービン、ディーゼル機関、ガス機関又はガソリン機関については、常用又は非常用(専ら非常時において用いられるものをいう。)の別を明らかにすること。